



# 100年企業社員の わが社のひみつ

社員の方の日常からわかる、  
100年企業の魅力。



若手技術者を中心に希望者を募って市内の施工物件の見学会を開催。

#若戸大橋見学  
#先輩が残した仕事  
#頂上で記念撮影



年末恒例の餅つき。家族や内定者、外国人社員も一緒に楽しみます。

#家族も外国人も一緒に  
#日本の文化を継承!  
#写真はコロナ前です



北九州空港へ行くたばに、いつも誇りに思う仕事があります。

#北九州空港連絡橋  
#上部工建設工事  
#これに関わったと自慢



毎年創立記念日は会社独自の休日。ゴルフコンペも行っています。

#11月26日は社休  
#創立記念ゴルフコンペ  
#ゴルフ仲間募集中!



新入社員をはじめ若手が格安で部屋を借りられる制度があります。

#独身者用借り上げ社宅制度  
#ENJOY!ひとり暮らし  
#休日には仲間とタバコなど



休憩室にはお菓子コーナーがありフレッシュしたい時におすすめ。

#ちょっと休憩にうれしい  
#充実のラインナップ  
#駄菓子屋さん気分?!

■ 日本鉄塔工業株式会社 本社:〒136-0075 東京都江東区新砂1丁目6-27 新砂プラザ  
若松工場:〒808-0023 北九州市若松区北浜1丁目7-1 TEL.093-761-2715

■ 創業:1922(大正11)年5月 ■ 従業員:252名

■ 東京本社・若松工場、北九州営業所・若松鉄構センター・仙台営業所・大阪営業所・広島営業所・福岡営業所・沖縄営業所・株式会社若宮・JST株式会社・株式会社日本鉄塔大森工場

■ 事業概要:送電鉄塔、通信鉄塔その他の塔状構造物の設計、製作、建設、販売/橋梁その他の溶接構造物の設計、製作、架設、販売/照明塔、道路工作物、モニュメント等景観製品その他の特殊な鋼構造物の設計、製作、建設、販売/鉄塔、橋梁その他の鋼構造物および関連施設の長寿命化/溶融亜鉛メッキの施工/各種精密ボルト、ナット、ねじの製作、販売

(ホームページ) [https://www.jsteam.jp/jst\\_t/](https://www.jsteam.jp/jst_t/)  
(採用Facebook) [https://www.facebook.com/日本鉄塔工業株式会社\\_採用-101681085720796/](https://www.facebook.com/日本鉄塔工業株式会社_採用-101681085720796/)  
(採用Twitter) [https://twitter.com/JST\\_recruit](https://twitter.com/JST_recruit)



発行/若松プライド・プラスワン推進協議会(北九州市 若松区役所 総務企画課内) TEL.093-771-3559



この「若松レガシー」はポートレース若松の収益金の一部を活用して作成しています

JESCO JESCO北九州事業所は当事業に協賛します

令和4年3月発行

## 100年続いた わが社の宝



なぜか社員は九州出身者が多いという日本鉄塔工業の宝は人材。仕事を通じて、社会の基幹インフラや人々の暮らしを支えていると実感できることが醍醐味で、社員の大きなやりがいになっているのだそう。

## 採用の取り組み、 求める人材



「今日を創り、未来へ『継ぎ』」一実行力がありチームワークを大切にできる人材を求めて、工場見学やインターシップも受け入れています。先日は若松高校の生徒さんが見学に訪れました。

ホームページ



Twitter



# 100↑



## 若松レガシー

2022 R4 O3

### 日本鉄塔工業株式会社

石炭の積出港として日本の近代化を支えた若松の誇り、100年企業を紹介するシリーズです。



## 100年目を迎えた 「日本鉄塔工業株式会社」の ひみつを探ってみた。

### 送電鉄塔づくりを託された若松工場

100年前、電気を消費者に送るために無くてはならない送電用の鉄塔づくりの一步が、若松の地で踏み出されました。1922(大正11)年、防錆処理を施すための溶融亜鉛めっき槽を備えた日本初の鉄塔メーカーとして創業したのが服部製作所若松工場です。当時、木製が主流だった電信柱の代わりとなる三角断面の小型鉄柱「三角鉄柱」を開発、販売することからスタートしました。

### 日本のパイオニアとして海外にも進出

戦時中、多くの工場が軍需産業に傾きましたが、創業者の有田勇次郎さんは頑なに鉄塔づくりに没頭。海外の鉄塔工事を引き受けるなどして厳しい時代を忍びます。やがて、日本の経済発展に伴い電力需要も増加。鉄塔の大型化のニーズに応え、鋼管内にコンクリートを充填しない中空鋼管鉄塔を世界で初めて開発するなどして、事業を拡大していきました。関門海峡を横断する送電用の大鉄塔も手掛け、1961(昭和36)年には社名も「日本鉄塔工業株式会社」と改めました。

## 送電・通信鉄塔や橋梁など、 鋼構造物のトップカンパニー。

### 長寿命化システムで経年劣化に挑む

以降、送電鉄塔以外の金属製品や、公害問題の少ない溶融亜鉛めっき製品の製作等にも取り組み、鋼管鉄塔で培った溶接技術を活かして、1963(昭和38)年には橋梁事業にも進出。近年は、携帯電話の普及に伴う通信鉄塔の製作や、東京スカイツリー®、阪神・淡路大震災復興記念の鉄人28号モニュメントなど、著名な大型プロジェクトにも参画しています。また、社会インフラの経年劣化という課題解決に向けても、独自の長寿命化システムをいち早く開発。既存の鋼構造物の点検や補修などにも携わっています。2016(平成28)年の熊本地震の時には、黒川一の宮線の仮鉄塔を10日余りで築きあげ、早期電力復旧にも奮闘しました。より長く安全に、人々の暮らしと社会のインフラを守るために走り続けて100年。今も若松に工場を置くトップカンパニーです。

主な事業実績

- 【鉄塔】ひびきLNG基地建設工事プラント設備工事、ミクニワールドスタジアム北九州照明柱
- 【橋梁】新北九州空港連絡橋、早津江川橋
- 【特殊鋼構造物】東京スカイツリー®





### 社長の休日



趣味はもっぱら体育会系。ゴルフや健康のための週2回の水泳、73歳の今でもスキーを楽しんでいるという有田社長。

[インタビュー]

## 社長さんに聞いてみた。

日本鉄塔工業株式会社 代表取締役社長 有田 陽一さん

「最近、若い人たちが入社してくれて、私の原動力になっています」と有田社長。業界に先駆けて、鋼構造物の長寿命化にも積極的に取り組んでいます。

### ―若松で100年続いた背景にあるものは？

祖父である創業者の有田勇次郎は、鞍手郡若宮町の生まれで技術屋気質。前身である服部製作所が若松工場をつくる時に、工場長に名乗り挙げた人です。100年続いた原動力になったのは、社会のインフラの基盤を支える仕事への誇りでしょうか。若松工場の背景には、北九州市が整備した洞海地区や響灘地区の公共埠頭のおかげで、海上輸送という課題を克服できたという利点もありました。

### ―日本鉄塔工業ならではの強みや魅力は？

日本の鉄塔メーカーの中でも常にトップランナーの技術をもって走るんだと自負しています。特に災害に強い鉄塔や、海をまたぐ超大型の鉄塔など、不可能を可能にする設計技術は強みだと思います。また、社員同士が助け合いの精神をもって仕事に取り組む、働きやすい社風も魅力です。親子孫と3世代続けて働いてくださっている人もいます。

### ―東京本社と若松工場のつながり

創業者が勤めた服部製作所が東京の会社だったこともあり、当初から東京に本社をお

き、若松工場で製品をつくるという体制でした。鉄塔業界の場合、情報収集に優れた東京に本社があったからこそ受注できた仕事も多く、商社とのつながりから早くから海外にも鉄塔を輸出していました。東京本社だけでも若松工場だけでも、どちらか一方だけでは成し得なかった100年だと感じています。

### ―新たな課題への対応について

鉄塔や橋梁を受注してつくるだけでなく、今は高度成長期のインフラの経年劣化の補修や、「100年もつ橋梁」が求められる時代です。近年は台風や洪水、地震の被害も多く、災害時に駆けつけ、いかに早くインフラを復旧させるかも課題だと感じています。

### ―これからの展望について

今、北九州市と下関市を新たに結ぶ「第3の関門道」として下関北九州道路が計画されていますが、地元企業としてはぜひ参画したいところです。我々は、未来に向かって持続可能なインフラを維持・整備していく非常に重要な役割を担っています。その志を引き継いでくれる若い人材に期待しています。

## 日本鉄塔工業 100年の軌跡

時代 年

- 10 (1921) 若松港が第二種重要港湾に指定
- 11 (1922) 5月「服部製作所若松工場」創業
- 13 (1938) 若松工場が分離独立し、東京市日本橋区に「株式会社若松服部製作所」を発足
- 30 (1955) 東京都江東区に砂町工場を新設
- 34 (1959) 関門海峡横断大鉄塔が完成
- 36 (1961) 国内初の矩形MC鋼管鉄塔製作。「日本鉄塔工業株式会社」に社名変更
- 38 (1963) 五市合併。若松市から若松区へ
- 38 (1963) 橋梁事業に進出
- 40 (1965) 中空鋼管鉄塔、鍛造フランジ継手開発
- 59 (1984) 橋梁長大化に対応するため「若松鉄構センター」と橋梁専門工場を新設。

- 5 (1993) 高層オフィスビル・新砂プラザに本社移転
- 5 (1993) 峇北火力線大戸ノ瀬戸海峡横断鉄塔に参画
- 16 (2004) 鉄塔メンテナンス事業に進出。「NT-鉄構造物の長寿命化システム」を開発
- 21 (2009) 鉄人28号モニュメントの製作に参画
- 22 (2010) 東京スカイツリー®の部材製作に参画
- 25 (2013) 太陽光発電用架台事業に進出
- 28 (2016) 「北九州市ワーク・ライフ・バランス表彰」で市長賞を受賞
- 2 (2020) 福岡県大川市の早津江川橋工事に参画
- 4 (2022) 創業100周年

### 若松のまちや人との関わり



若松の景観デザインや環境美化活動にも貢献。時計塔や中川ストリートの景観デザインも。

100年の歴史の中で、景観事業などまちづくりに携わってきた日本鉄塔工業の作品は、若松の街並みの中にも見られます。1991(平成3)年に響灘緑地で「グリーンネットワーク北九州」が開催された折には、池に架かる緑の吊り橋「そよかぜ橋」を設計し寄贈。1997(平成9)年には、大正町商店街前にある大きな時計のついた「連歌の塔」の製作を担当しました。冬には美しいイルミネーションで彩られる中川ストリートの景観デザインも手掛けています。

### 北九州市自治会活動応援事業者として表彰。

毎月2回、若松工場の周辺の清掃活動を長年にわたり継続してきた日本鉄塔工業。このほか、地域に住む従業員の方たちは、自治会の年間行事であるソーマン流しや餅つき大会、廃品回収などにも積極的に参加。地域の高齢化が課題になる中で大きな支えになっているとして、2022(令和4)年3月に「北九州市自治会活動応援事業者」として表彰されました。



## 日本鉄塔工業 × SDGs

CO<sub>2</sub> 排出削減や女性管理職登用にも尽力。

「北九州SDGs登録制度」の登録事業者でもある日本鉄塔工業。2021(令和3)年4月より、品質向上や新技術開発のため、イノベーション企画グループを新設。また、産業界と連携して社員の健康維持に取り組んでいるほか、社員のスキルアップのための資格取得奨励制度を定め、社員が生きがいを持って働きやすい環境づくりにも取り組んでいます。SDGs達成に向けた重点的な取り組みとして、次の具体的な目標値も掲げています。

